

原っぱのような公園の必要性は

中村 文武議員



子ども達の心身の成長の助けには不可欠
産業建設部長



▲ボールが利用できる公園（日置町）

問 市内の公園数及びボールが利用できる公園数は。

答 公園は89カ所ある。そのうちボールが利用できる公園は4カ所。

問 ボールが利用できるようにするための課題は。

答 安全性の確保ができれば、ボールを使用することは可能。ただし、高いネットフェンス等が設置されていない公園で、野球などの利用が日常的な

場合には、近隣住民等の意見をもらい、利用を制限する看板等を設置するなど、ニーズと安全性の確保の両立を目標として対応をしている。

問 公園を増やす、または拡張するための課題は。

答 今後も利用状況や地域のニーズを踏まえた上で、公園利用者や近隣住民の意見を考慮した対応を検討していく。

問 原っぱのような公園の必要性は。

答 東海広場のような公園が身近に存在することは、市民の健康促進や子ども達の心身の成長を助ける上で欠かせない。

部活動地域移行の進め方

問 中学校を放課後から19時までの開放要望もあるが可能か。

答 部活動で午後5時頃まで利用があり、夜間照明のある学校が2校であることから、平日の開放は考えていない。

また、名古屋市においては、主に小学校の部活動における取り組みとなるが、なごや部活動人材バンクとして指導者の募集から配置計画までを民間委託している。

問 今後の進め方は。

答 愛知県の部活動の地域移行に向けた推進計画が今年度中に策定される予定であり、県の推進計画と整合を図り、本市における推進計画の策定に取り組み、保護者への周知を行い、部活動の地域移行を進めていく。

問 部活動地域移行の先進地の事例は。

答 春日井市については、行政主導により外部指導員を配置し、年々事業費が増大している状況であり、将来的な地域移行も踏まえ検討している。